様式３

会　　議　　録

□全部記録　　■要点記録

１　会　議　名	第３回 ひめじ創生戦略会議
２　開催日時	平成２７年１１月２日（月）　１５時～１６時３０分
３　開催場所	姫路市役所　北別館４階　４０３会議室
４　出席者又は欠席者名 ひめじ創生戦略会議委員１３人、市長、事務局 欠席：連合兵庫姫路地域協議会事務局長	
５　傍聴の可否及び傍聴人数 傍聴可（５人）　傍聴人（３人）	
６　議題又は案件及び結論等 １　開　会 ２　議　事 (1) ひめじ創生戦略　事業・数値目標について (2) 進捗状況及び今後の予定について ３　その他 ４　閉　会	
７　会議の全部内容又は進行記録 詳細については別紙参照	

第３回 ひめじ創生戦略会議

別紙

事務局	１　**開会**（１５：００） ※第３回ひめじ創生戦略会議の概要説明 ２　議事
市長	・合計特殊出生率が上がらない状況で、消費総額も下降し、経済も縮小する。その中でどうやってそれぞれの地域が活力を維持するかが大きな課題である。 ・地方で取り合いをするのは好ましくないが、これ以上の東京への一極集中は防ぎたい。そのために地方が力を備えていかなければならないというのはその通りで、我々も努力したい。 ・一方で高齢者の新たな環境作り、70歳ぐらいまで働ける元気な高齢者がどんどん消費するという形を検討する必要があるのではないか。姫路が観光に力を入れているのはその方向を狙ったものである。 ・創生戦略の中に長寿社会の在り方を議論の一つに加えて頂きたいと思う。
事務局	※新委員の紹介
会長	・前回までの議論を踏まえ、かなり整理された資料が配付されている。今日の議論を受け議会、パブリックコメントへ繋げていく。 ・新内閣の発足で新しい３本の矢という方針も出た。本日も活発な議論をお願いしたい。
事務局	【説明】 資料１の前回からの主な変更点について ・33ページ　計画期間を平成27年度～31年度に変更する。これは国の地方創生コンシェルジュ等から助言を受け、他都市の動向も調査検討した結果、本市も連動性の観点等から国・県等の計画期間と合わせたい。12月開催の姫路市議会特別委員会において説明のうえ最終的に諮りたい。 ・10ページ　高齢者のスポーツ等活動についてのアンケート調査を追加した。

	・24ページ　⑤のタイトルを変更した。 ・46ページ　ものづくり、起業家支援、産官学連携について２つに分けていた施策を、事業が混在し明確に区分しがたいため、施策①で１つの施策として統合した。 ・47ページ　施策⑥MICEの推進について、施策⑤の中に含めていたものを１つの施策として頭出しした。 資料２、資料３、資料４、資料５の内容説明（省略）
市長	・資料１、24ページ⑤のタイトルについて、「近隣市町の人口減少の可能性が本市へ与える影響」ぐらいに留めてはどうか。
事務局	・そのように訂正する。
委員	・各部局にわたって非常に多くの目標が羅列されている。部局の中で温度差ができることが考えられるので、部局や課が優先順位をつける方向で進めていただきたい。
事務局	・事業については担当部局と調整しており、ある程度その意見を踏まえたものである。 ・例えば子どもを生みたいという希望に対するギャップの原因は収入であり、それには地方創生による経済の活性化が一番のポイントだと考える。アクションプラン２ページの好循環モデルでも挙げているが、ものづくり産業の活性化と、姫路城を活かした魅力で観光客の誘致を図っていきたい。
委員	・KPIについて、その数値の根拠について各部局と詰めているか。例えば基本目標１の全国シェアの数値の根拠はどういったものか。
事務局	・製造品出荷額については、産業部局と相談しリーマンショック以前のピーク時である平成20年の数値を目標に入れている。それぞれに各部局と共有し、特に経済振興ビジョンを参考にしている。

委員	・KPIの数値は、民間にも意見を求めて妥当かつハードルを少々高めにした数値を設定されているのではと推測する。 ・大事なのはPDCAサイクルで、推進状況をしっかりチェック・評価して、またPDCAサイクルで回していく。結果的にKPIについても何としても到達する、そこが大事だと思う。
委員	・資料２、３ページの施策④農林水産業等の振興で、「はりまプレミアム」認証件数を挙げていただいている。例えば野菜では「姫そだち」という姫路独自のブランドがある。それら既存ブランドと「はりまプレミアム」との関わり、あるいは播磨圏域の連携を意識された表現に統括されているかと思っているが、現状の市独自あるいは県が認証している商品との関わりはどのように整理されているか。
事務局	・連携の取組みで新たに作る播磨のブランド数を数値目標にしている。基本的には県のブランド認証制度において姫路市のブランドが368品目登録されており、それとの整合性を図りながら播磨のブランドを作っていく。数値目標に関しては、県ブランドに登録されているブランドのうち姫路市のブランドの約半分を、はりまプレミアムブランドとしてこの５年間で登録を推進していく。
委員	・起業家支援で、新たな補助金の創設について考えているか。
事務局	・資料２、７ページの「ビジネスプラン支援事業の実施」を考えている。創意工夫した新たな取り組みについて、外部の視点を入れながら評価し支援していくという施策である。
委員	・この施策を実施するのは市単独では難しいと思われ、共に連携させていただきたい。特に創業に関しては金融機関の連携ネットワークを敷いており、あわせて連携を密にさせていただき、より意味のあるものにしていきたい。
委員	・TPPの問題や消費税10%の問題は、この施策に反映されているのか。

事務局	・TPPについて、直接の反映はしていない。消費税についても数値としては考慮していない。アクションプラン自体、国施策の影響等で見直すべきところについては毎年度見直しをさせていただく。
委員	・資料２、16ページ「民間賃貸住宅に入居する子育て世帯に対する家賃助成」とあるが、賃貸の場合は企業等から補助が出ていないか。 ・マイホームを建てるまでは家賃助成が出るが、建てた途端に出なくなり、さらに固定資産税と住宅ローンがかかる。この差が出るとどうなのか。
事務局	・制度設計について今後研究していく。収入の問題もあり、難しい制度である。横浜市などの先進事例も参考にしつつ一年間かけて担当部局が制度設計していく。
会長	・地域を引っ張っていく企業と連携する施策は考えているか。例えば、ものづくり産業の活性化、技術力の向上という点で、大企業が地元の中小企業を対象としたオープンイノベーションの実施や、地元の企業に大学生を就職させ地域に残すというような、地元の中堅・大企業を含め何か協力していただける施策ができればよいのだが。
事務局	・資料２、９ページにあるように、例えば「高校生を対象としたインターンシップの促進」は、今まで個別に行っていたのを教育委員会等と話をし、きっちり管理しながら進めていく。また「民間企業と連携した就業教育」について、特に金融機関から学生への職業教育の申し出を多くいただいたため、教育委員会とマッチングさせ民間企業と連携した就業教育を進めていく。大学と地元の企業を繋ぐ施策についても今後検討を進めていきたい。
会長	・大学側としては地域創生に積極的に協力したく思っており、地元の大企業への働きかけをしてほしい。
委員	・資料２、９ページの施策③の数値目標につき、インターンシップを体験した生徒数が単年で21人なのに対し、４年累計で92名なのは現在とほぼ一緒であり、何もやらないという感じがする。

事務局	・28～31年度の平均値が23で、その累計値である。現在の取組状況を踏まえ、数値目標としてはこれくらいが目標として然るべきかと考えた。 ・市立３校の数値を入れており、県立校については県にも協力はお願いしている。
委員	・今後パブリックコメントがあるということで、中身について市民にわかりやすいよう、これまで以上に広報をしっかりしてほしい。 ・選挙権の年齢が18歳になる時代であるので、若い世代にできるだけ意見を聞いていただくような工夫をしてほしい。
委員	・それに関連し、様々な世代や業種の方が集まるサミットのようなものができればと思う。
事務局	・資料２、21ページ「ワールド・カフェ方式を活用したタウンミーティング」ということで、来年度実施したいと考えている。
委員	・ものづくり力について、中小企業は特にそうだが事業承継や後継者問題がクローズアップされているが、対策はあるか。
事務局	・後継者に限定した形ではないが、創業支援の中で対応していく。
委員	・創業者支援は商工会議所と姫路市で連携し一定の成果が出ているが、後継者がいないのは非常に大きな課題である。市と商工会議所で連携しながら引き続きやっていきたい。来年度以降、ある程度の方向性が出たらプランに入れていただければと思う。
市長	・南海・東南海地震などの危険を考えると後方拠点をおくことがこれから重要になってくる。従業員の生活環境や知名度の上昇など、企業のブランドとして姫路の価値が上がっている。この創生のタイミングで、第二段階の企業誘致という形で取り組んでいきたく、その節はご協力をお願いしたい。 （市長退席）

委員	・高校教育で公立高校が強くて安心感があるが、市内に大学は４つしかなく、人口の割に少ないのかもしれないが、大学生の元気がないように感じる。若者が元気に発言できる場があればと思う。 ・進学で姫路に来た学生に姫路で就職してもらったり、市外の大学に進学したとしても、その後姫路へ戻ってきた場合に奨学金を優遇するようなシステムがあればと思う。
会長	・姫路には優秀な公立高校がいくつもあり、また大学生が人口に対し非常に少ないというのはそのとおりである。地理的な条件もあるが、大学側としても考えていかなければならない点である。 ・奨学金について、地元に定着するような施策の一環としてできれば。地元の有力企業が基金を作り、地元に残る学生に対して奨学金を貸与し返還を免除するなどの施策は一つの方法として重要ではないかと思う。枠組みがなかなかできないので、ぜひ行政に音頭を取ってもらえればと思う。
委員	・これだけの事業を市を挙げて展開するにあたり、意気込みのあるスローガンや旗印を掲げ、それを基に進めればベクトルが合うのではと思う。
委員	・施策③で、指導する教師に対し、地元企業のことをもっと知ってもらう授業をして教師から姫路をPRする形があってもよいのではないか。 ・施策⑦に、外国語対応のスタッフの充実とあるが、食事で市内の店に入った際、店側がうまく対応できず案内できない、また、マナーの悪い客もおり町を汚して帰ってしまうなどと聞く。マナー本のようなものを作り、それを見て楽しく観光してもらうという案内方法があるのではないか。
事務局	・教員の郷土・職業教育に関しては全くその通りで、教員への研修という視点で教育委員会とは協議中である。今回のアクションプランには載せられなかったが、継続的に協議していきたい。ただ、教育委員会を挙げて各校長へは指示を出すことになっている。 ・おもてなしの部分に関しては、観光の産業化というイメージで講座を開く形なので、ご指摘いただいた部分についても担当部局に伝え、施策化を研究したい。

委員	・創業支援について、創業するのは簡単だが、継続するのは難しい。創業支援の対象だが、金融公庫などでは創業１年以内の方にも措置をするといった対応をしている。対象を考える時に、創業のタイミングだけでなくいかに企業を存続し雇用を安定するかを考え、範囲を広げると創業支援の意味が増してくると思う。
副会長	・出生率を上昇させることが大事で、新規事業で家賃助成などが挙げられているが、子育てに対する不安を解消するためにも思い切った取組みをお願いしたい。
会長	・一方で、長寿社会で生涯現役、高齢者の雇用という話もある。産学連携機構では、姫路工業大学を卒業したOBの方を起業支援のスタッフとして登録をお願いしている。社会に貢献し、経験・技術を活かしたいという思いを持つ方は非常に多いので、様々な分野で高齢者が活躍できる場を作る施策が必要ではないか。それがまた健康寿命を延ばすことにも繋がるのではないか。
事務局	・資料２、14ページ「地域の新しい担い手づくりの推進」で、高齢者にも健康で社会貢献していただきたいということを含んでいる。
委員	・姫路の職安が出しているデータによると、姫路の有効求人倍率は1.2倍台でものづくりを中心として元気だが、地元企業の意見では人が確保できておらず、人の質・量とも十分でないとのことである。若い人材を確保すると、配偶者・子どもと人口確保の面で非常に効果が生じる。高度経済成長期には西日本から兵庫県にたくさん集団就職していた。東京の学生への情報発信も大切だが、県民センターでは来年度は四国、中国地方から特に理系をターゲットにバスツアーをし、九州地方では企業に声をかけ面接・相談会を行おうとしている。市が連携し一部取り込んでもいいというものがあれば、姫路市の戦略に掲載していただければどうか。 ・観光面で、先日姫路駅長と話した際、年度前半に姫路駅の乗降客が大幅に増加しており、その大半が観光客であるとのことであった。大事なことはリピーターを増やすことで、そのためには、城を見るだけでなく特に海

	外観光客がまた来たいと思ういろんな楽しい体験ができるようにすることが重要である。それらの体験を知人にSNSなどで情報発信してくれたりするので、外国人観光客が着物に着替えられる体験など様々な工夫ができないか。また大手前通りだけでなく御幸通りなどへも誘導するような取組みをもっと行うべきである。
会長	・東京大阪の前で途中下車したくなるまちや産業界の魅力が重要だと思う。
委員	・資料２、14ページの「結婚希望者を支援する人材を養成するための講座」は、どのような内容か。
事務局	・昔は近所で結婚のお世話をしてくれる高齢者が多かった。県や民間が婚活事業を展開している中、姫路市ならではという形で、高齢者に結婚の仲介をする時のマナーやプライバシーポリシーなどについての講座を開くという形での結婚支援を考えている。
会長	・貴重な意見をいただきありがとうございます。この意見を事務局でまとめていただき、良いものは盛り込んでいただきたく思います。
事務局	３　その他 ※連絡事項 ４　**閉会**（１６：３０）